



土岐市教育研究所	0572-54-1111 (内374)
TEL FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 579
発行責任者	所長 西尾 実
発行日	令和7年 1月 15日
題字	長谷川 広和 教育長



『大きなサツマイモ
とれたよ!』

特別支援学級
サツマイモの収穫

撮影 土岐津小学校
浅野 亮子 先生

学校は未来社会の縮図

土岐市教育研究所長 西尾 実

初めて中学校に勤務した平成の初め頃、中学校は今のようには落ち着いていませんでした。その時、先輩から「学校は社会の縮図」という言葉を教えてもらいました。当時の私は、この言葉の意味を、大人社会は、ルールを守り、役割を果たすことが何よりも重要だという意図で指導していました。そんな服装や髪型は社会で通用しない、校則で決まっているからなど、厳しく指導していました。今、この言葉を使うならば、社会で通用する人間になるために、提出物はきちんと出すということでしょうか。

考えてみるとコロナ禍を乗り越えた令和の時代、コンビニでたむろして迷惑をかける若者をあまり見かけません。世代が違って迷惑行為を平気でする人は少なくなり、公共の場でのマナーやモラルなどは、以前より向上してきていると思います。同調圧力や揶揄されることもあります。見方を変えれば、学校で社会のルールやモラルをしっかりと教えてきた先生たちがいたからではないかと思うようになりました。

先日、「小学校～それは小さな社会～」というドキュメンタリー映画を観てきました。ある小学校の1年間をありのままに撮り続けた全く脚本のない映画です。舞台あいさつで山崎エマ監督は「小学校で教えている学校生活を通した人間教育は、コミュニティづくりの教科書だ。」と言われました。また、「小学校で教わった、返事をす

る、靴を揃えるなど、何事もきちんとする習慣こそが、今、当たり前社会人として生きている基礎になっている。」と、語られたことに、とても強い共感を覚えました。特別活動として行っている係活動や当番活動は、今、失いかけてきているコミュニティの原点だと思います。子どもたちは、学校をより楽しくするために児童会や生徒会活動を行い、当事者意識をもち、少しずつ社会を形成する人間としての自覚を身に付けていきます。それを全力で支えている先生がいる日本の学校のすばらしさを痛感しました。

「学校は社会の縮図」という言葉は、大人社会で通用する人間になるためにどうすべきかを考えさせるものでした。令和の時代は、「学校は未来社会の縮図」ではないかと思っています。役割のない社会はありません。子どもたちと共に、どんな役割が必要かを考え、未来社会を試してみる学校でありたいと思うようになりました。それが将来の大人社会につながっていくと思います。最初はやりきれなかった係の仕事を一年かけてできるようになることは、その子にとって、必ず生きる力になります。それを教え、支えてくれるのが学校の先生です。このことは平成も令和も同じで、将来も変わらないと思います。学校の先生として子どもたちの成長の瞬間に立ち会える教員の仕事の魅力に改めて気付かされました。



地域とともにある学校



妻木小学校長
土本 弥生

妻木に魅せられて

学校の敷地内や妻木の町を歩いていると、国語の教科書にある文学作品や懐かしい歌が浮かび足をとめます。コスモスの花は4年生の今西祐之作「一つの花」に出てきます。ひがん花は新美南吉作「ごんぎつね」、八幡神社祭礼で聞いた「越天楽」は6年生の音楽で習います。子どもたちが学校の敷地内でさわがにを発見した時は、ふと、6年生の国語教材宮沢賢治作「やまなし」を思い浮かべました。教室で学習したことが、学校や地域の風景の中にもあるという発見や主人公の気持ちや情景を想像することに繋がったら素敵です。まだまだ妻木の素敵な情景は続きます。長い夏が終わり、4年生の教室から「もみじ」の歌が教室から聞こえてきました。妻木の美しさを校舎2階の教室から眺めました。絶景でした。

そして、6年生は「ふるさと」の歌へと続きます。歌詞の最後は1番「忘れがたき ふるさと」、2番は「思いいずる ふるさと」3番は「水は清き ふるさと」豊かな自然、妻木の子どもたちや妻木小を大切に思ってくださいる町、時代を超えて歌い継がれていく歌に「ふるさと妻木」が込められていったらと、うれしい想像をしながら過ごす日々です。

願いを共有して、学校と地域がつながる

本校は昨年度、創立150周年を迎え、児童、保護者、地域の方が参加の記念集会が盛大に開催されたと聞きました。妻木小学校は地域の方に愛されている町の象徴であると実感しました。「自分を大切に、将来の夢の実現のために、自ら挑戦できる子」「仲間を大切に、仲間と共にやり抜く子」「地域を愛し、地域を大切に思う子」この3つの願いを学校運営協議会の方々と学校が共有し、連携して地域の未来を担う人づくりを推進しています。その共有の仕方は運営協議会の方や地域指導者の方と職員や保護者が顔を合わせる機会を定期的に位置づけています。学校運営協議会が中心となり、年間を通じて地域に関わる学習をコーディネートし、1年生から継続的にふるさと教育を実践しています。地域の指導者と体験学習を行うことで、ふるさと妻木の知識だけではなく、地域

の人とのつながりを感じながらふるさとへの愛着を育んでいます。「社会に開かれた学校、教育課程」の実現という大きな課題が学校には課せられていますが、地域という身近な社会とのつながりを意識した学習が地域の方の惜しみない支えのおかげで可能となっています。また、地域をよく知らない職員も顔を合わせたり、ともに授業を仕組んだりすることで、地域への理解を深めることに結び付いています。これは互いに良好なコミュニケーションを生み、学校での学びを地域の方に理解してもらうことにもつながっています。地域の教育力を生かし、地域とともに創る教育は子どもたちのよりよい成長を育むために、大切にしたい本校の特色です。

子どもたちから見た ふるさと妻木

今後の学校運営協議会の運営や総合的な学習時間の見直し、「地域で子どもを育てる」という見方・考え方を大切にしていく上で、児童が妻木をどのように思っているか3年生から6年生を対象にアンケートを取りました。「妻木が好きですか」については「好き」平均が98%を超えました。

「妻木のことを学んで感じたことは」については

- ・自然が豊かで歴史がある。流鏝馬が400年の伝統があってすごい。古くからの伝統が続いていてすごいところ
- ・地域の人が挨拶してくれるし、やさしい
- ・たくさんいいところがあって、もっと知りたいなと感じた。
- ・妻木に住んでいてよかったなと誇れるなと感じた。等

これまでの学習、地域の方や地域の自然と直接ふれあった学習の成果です。この学びがさらに子どもたちの生きる力となるよう、学校はねらいや目標を明確にしていきたいです。

学校も地域も元氣を目指して

学校運営協議会が立ち上げられてから数年が経とうとしています。子どもたちや職員、学校に寄せられる地域の方々の変わらぬ愛、支えに感謝しながら、学校生活や地域の方との交流を通して、妻木小や妻木町、「ふるさと妻木」に誇りをもって育ってくれることを願い、学校、地域、家庭との連携の強化を図っていききたいと思います。

「言葉で伝え合う力」を育む

泉西小学校附属幼稚園 長崎 美里

本園は、文科省から『幼保小架け橋プログラム』の指定を受け、3年目となります。この取り組みは、泉西小学校区の小学校・幼稚園・こども園が「言葉による伝え合い」を重点として、子どもの育ちと学びをつなぐ【接続期マップ】を活用しながら、年間の見通しをもち実践し、【連携のあしあと】に取り組んだ活動を記録し、振り返りを参考に次年度の工夫改善を行ってきました。

接続期に「言葉による伝え合い」を行うために、本園全体の取り組みとしても「言葉で伝え合う力」を育むことに重点を置き、異年齢交流を行っています。年齢の違う園児たちが活動する中で、安心して自分の考えや思いを言葉で表現したり、友達の思いに気づいたりすることで相手を思いやる気持ちがもてるようになり「言葉で伝え合う力」が育まれると考えています。

《ねらい》

- 5歳児：3・4歳児の思いを聞いて手伝ったりすることで、相手の気持ちに気づき大切にしようとする。
- 4歳児：5歳児の姿に刺激を受け憧れの気持ちをもち、3歳児に対し思いやりの気持ちをもつ。
- 3歳児：見守られながら安心して活動を楽しむ。

活動の内容としては、手を繋いで一緒に歩いたり、教諭が仲立ちをしながら遊んだりすることで親しみがもてるようにするところから始めます。一緒に活動をするペアを固定することでより親し

みが増し、交流を重ねるごとに仲が深まっていきます。その中で、教師が思いや気づきを代弁したり、行動を言葉にしたりすることを繰り返し経験することで、それぞれにあった言葉で表現しようとする姿が見られるようになってきます。

園全体の取り組みとして行うことで、担任だけでなく、どの教師もねらいを踏まえた言葉がけがタイミングを逃さずできることが実体験を伴う経験となり、力となっていると考えています。

また、5歳児が『幼保小架け橋プログラム』の取り組みとして行っている1年生との交流から、幼稚園では経験できない年上の子との関わりをもつことは、相手を思いやる気持ちの気づきとなり、幼稚園での異年齢交流に活かされています。



繰り返しの経験の中で育まれた「言葉で伝え合う力」は、普段の生活の中でも発揮できるようになり、相手を思いやる気持ちや、思いに耳を傾けようとしています。今後もそのような子どもの姿を大切にしながら、異年齢交流に取り組んでいき、遊びの中から学んでいけるようにしていきたいと考えています。

研究主題：主体的に学び合う児童生徒の育成

～「仲間との交流」に重点をおいた授業づくりを通して～

1 研究主題設定の理由

研究を始めるにあたり、土岐津中学校区の児童生徒の実態と共通課題（願う児童生徒の姿）を以下のように明らかにし、研究主題を設定した。

【実 態】

- 授業に落ち着いて取り組むことができる。
- 基本的な学習姿勢が定着している。
- 不登校・不登校傾向の児童生徒がいる。
- 仲間と共に課題解決に向かう姿に弱さが見られる。
- 自分の考えを仲間と共有することで、考えを広げたり深めたりする姿勢に欠ける。

【共通課題（願う児童生徒の姿）】

仲間と共に進んで課題解決に取り組む児童生徒を育てる。

【土岐津中学校区の研究主題】

主体的に学び合う児童生徒の育成
～「仲間との交流」に重点をおいた授業づくりを通して～

「仲間との交流」に重点をおいているのは、協働的な学びを進めることで、学力定着を目指すことはもとより、教科授業の中で、仲間が必要とされていることを実感できることを願ってである。

この研究を進めることで、児童生徒にとって安心して学習に向かえる環境となり、不登校・不登校傾向の児童生徒の減少にもつながると考え本研究を推進した。

2 研究仮説

【研究仮説】

必然性のある課題を設定し、「個の学び」を補う「仲間との交流」がある学習過程の工夫をすれば、「できた」「わかった」を実感し、主体的に学び合う児童生徒を育成することができる。

3 研究内容

- 【1】児童生徒の「やってみたい」「できそうだ」という思いを引き出す工夫
- 【2】教科の力と自己有用感を高めるための交流活動
- 【3】「できた」「わかった」を実感し、新たな学びにつなげる終末

4 研究実践

【研究内容2】における、仲間との交流について紹介する。

実践1 小6：外国語「Unit6 Save the animals.」

「自分の気持ちや考えを表出し、相手に伝える力は弱い。分からないことを相手に伝えることが難しい児童もいる。」という実態

この実態を受け、授業で交流活動の場面を仕組み、以下の手立てを考え実践した。

- ・3人グループを意図的につくり、話しやすい環境をつくる。
- ・既習事項や交流で使える表現を板書に位置づけ、安心して仲間に自分の考えを発信できるようにする。

Aさんは、自分からBさんに表現の仕方が分からないことを質問したことで、Bさんも表現の確認ができたし、Aさんも自分なりの表現を工夫することができた。このことを教師が価値付けることで、児童の自己有用感を高めることができた。

実践2 中3：数学科「相似と比」

「自分の考えを広げたり深めたりするために主体的に交流する力や、相手の考えから、自分の考えを振り返り、検討し、再構築することに弱さが見られる。」という実態

この実態を受け、授業で交流活動の場面を仕組み、以下の手立てを考え実践した。

- ・仲間がどの図で考えているかを把握して交流相手を意図的に選べるようにロイロノートの共有ノートを用いて、誰がどの図を考えているのか分かるように提示する。

自分だけの考えにこだわらず、仲間の考えを理解しようと動いたり、自分の考えを仲間に粘り強く説明したりする生徒が多くいた。このことを教師が価値付けることで、生徒の自己有用感を高めることができた。

5 成果（○）と課題（△）

○全国学力学習状況調査のアンケート結果の中の自己肯定感（自己有用感）や仲間と学ぶことに関する結果は全国や県に比べるとまだまだ低いものの、この実践を通して少しずつ上がっている。

△交流活動を単位時間内に位置づけることはできているが、児童生徒が本当に必要な場面での交流を位置づけられるように必然性を考える必要がある。

6 今後に向けて

この3年間の実践をもとにして、今後は、児童生徒が、授業、学級活動、行事などを通して、仲間と関わることの喜びを高め、安心して登校できる土岐津中学校区を目指していきたい。

肥田中学校区「課題解決指定」後の歩みについて

肥田小学校・肥田中学校 研究推進部

1 はじめに

肥田中学校区では、「確かな学力を身に付けている」「根拠をもとに自分の考えを具体的に表現できる」「仲間と対話的な活動をして解決する」児童生徒を目指して、『どの子もわかる、できる、深まる授業づくり～対話的な活動を通して～』を研究主題として掲げ、取り組んできました。

令和5年度までの研究成果を踏まえ、令和6年度は、さらに「児童生徒が主体となる授業づくり」「確かな学力の定着」を目指し、以下のことに力を入れて取り組みました。

2 令和5年度の重点として取り組んだこと

（１）見通しや課題意識をもつための工夫

必然性のある学びを生み出すために、教師と児童生徒が「本時、何が出来ればよいのか」共有したり、児童生徒から問いを引き出し、児童生徒の言葉を使って課題化したりしました。また、学習の手掛かりとなるキーワードを提示したり、単位時間の授業の進め方を工夫したりすることで、児童生徒が見通しをもって、粘り強く学習に取り組めるようにしました。

（２）仲間と考えを広げ深める対話的な活動の工夫

対話的な活動を仕組む際には、活動の目的、目指す姿、話題、形態、方途を教師が明確にもち、指導案にも位置付けるようにしました。また、考えを整理し、広げ深める手立てとして、全体交流後に複数の意見を比較・考察したり、実践したりする場を設定しました。

（３）学びを自覚し、よりよい自分を実感できる終末の工夫

終末では、個々の学びの状況を把握し、個に応じた習熟の時間を確保しました。また、学びを振り返る際には、何を学んだか、どう学んだか、どう変わったかという視点で自分の学びを捉えさせたり、各教科の特性に応じた振り返りの方法を工夫したりすることで、児童生徒が学びの成果や自身の変容を自覚できるようにしました。

3 令和6年度に取り組んだこと

昨年度の研究成果を受け、「どの子もわかる、できる、深まる授業づくり」のさらなる向上を目指しています。自校の課題点を分析し、「対話的な活動の質の向上」と「振り返り活動の充実」に焦点を当て、研究を進めました。

肥田小学校では、児童が授業の主体になりきれていないという課題を踏まえ、理解度に応じて、対話的な活動を行うタイミングを柔軟に変更しました。児童の学びの姿に応じて、教師が授業展開を調整することで、児童が自ら「どのように学びたいか」を発言するようになりました。また、確かな学力の定着に弱さがあるという課題を受け、「根拠をもとに、自分の考えを正しく表現できるようにする指導」を取り入れました。「話す」・「書く」どちらの活動においても、活動の終末に教師が模範となる表現を示すことで、児童がどう表現すればよいのか意識して表現しようとしたり、自分の文章を見直したりする姿を増やすことができました。

肥田中学校では、特に「確かな学力を身に付けていない」という点に注目し、「対話的な活動」の工夫に加え、「振り返り活動の充実」にも新たに取り組みました。単位時間の終末に自身の学びを振り返る場を確実に設けたり、それを読み返す時間を設けたりすることが、生徒の確かな学力の定着につながると考え、実践を積み重ねています。実践を始めたときには、学習内容の印象に残った部分をまとめる段階で留まっていた生徒も、自己の躓きや予想との乖離を文章で振り返ることができるようになってきています。今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

4 おわりに

今回、肥田中学校区における児童生徒の実態を鑑みた上で授業改善を図りました。授業を中核に据え、求める児童生徒像を具体化する取組を推進する中で、発達段階に応じて共通した取組をする重要性に触れることができました。今後も小中9年間を意識した取組を推進していきます。

令和6年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現～終末からの授業改善

実践報告 土岐市立泉中学校 教諭 林 祥太

【日 時】令和6年10月16日（水） 第5校時

【学 級】泉中学校 2年D組

【題材名】エネルギー変換の技術

【本時のねらい】

ダイナモラジオに使用されている部品を活用した電気回路を製作する活動を通して、災害時に役立つ製品にするために「社会からの要求」「環境」「経済」「安全」の4つの視点から考えることの大切さに気づき、根拠をもとに電気回路を決定し、表現することができる。

描く具体的な終末の姿

災害時に役立つ電気回路を「社会からの要求」「環境」「経済」「安全」の視点から考え、構想した機能を実現するにはどの部品を使用したらよいかを的確に判断して製作している姿

【導入】課題意識

「あれ?」「なぜだろう?」「やってみたい!」



災害時に避難所で使用するなら、どの部品を組み合わせた電気回路にするとよいだろう。

場面を設定し、同じ条件で思考できる場をつくる。

【終末】学びの実感

「できた!」「わかった!」「もっと知りたい!」



4つの視点から考え、目的と条件に合わせることが大切だ。僕は経済性と安全性を大事にしたいと思った。

根拠のある自分の最適解を導き出すことができるようにする。

【展開】個別最適な学びと協働的な学び

「～すればよいのかな?」「～してみよう!」「～に聞いてみよう」「そうか!」「なるほど!」

個別最適な学び

ヒントカードや製作の見本など、生徒が課題解決に必要なものを選択させる。



協働的な学び

仲間と交流し、考えを再構築する活動を仕組む。

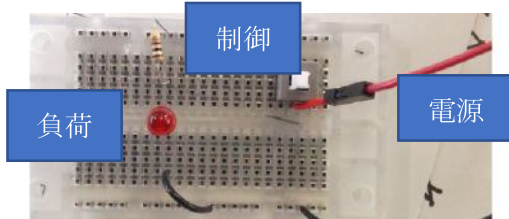
省エネの観点からこの部品を取り付けて回路を作ろう。



実践を終えて

- ・追究活動の時にヒントカードや製作物の見本の準備をしたことで、生徒が見通しをもって活動を進めることができた。
- ・全体交流の場で、教師が生徒の意見をロイロノートのシンキングツールを活用してまとめたことで、生徒の思考を可視化することができた。
- ・全体交流で出た仲間の意見を踏まえて、個々が大切だと考える視点を取り入れ、根拠をもった最適解を導き出すことができた。

展開詳細

過程	主 な 学 習 活 動	指導・援助																					
つかむ	1 本時解決すべき課題を明らかにする。(5分) - LEDを点灯させる回路を作ることができた。 - 電気回路をつくるには「電源」「負荷」「制御」を導線でつなぐ必要があった。 - このままでは災害時に役立つ回路とは言えないな。 	【視点1】「やってみよう」を生み出す導入 - 災害時と場面を想定することで、つくってきた回路を改良する必要があることを確認する。 「災害時に役立つ回路をつくること」、「製作する時にどんなことを考えたか」を話せるようにすることを確認する。																					
見通す	課題 災害時に役立つ作品にするには、どのような電気回路にするとよいだろう。																						
	2 製作、追究活動(ペア、スクランブル) (20分) <table border="1"><thead><tr><th></th><th colspan="2">電源</th><th colspan="2">負荷</th><th colspan="2">制御</th></tr><tr><th>部品</th><th>電池</th><th>ダイナモ</th><th>LED</th><th>ブザー</th><th>スイッチ</th><th>可変抵抗器</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td> - 安定して使用できる。 - 消耗すると使えなくなる。 - ゴミになる。 </td><td> - いつでも発電できる。 - 使うたびに回すのは労力がかかる。 </td><td> - 夜に活動しやすくなる。 - 使用する時間帯が限定される。 </td><td> - 音で知らせることができる。 - 音量に気をつける必要がある。 </td><td> - ON/OFFの操作が容易 - 微調整できない。 </td><td> - 光量や音量の微調整が可能。 - コストがかかる。 </td></tr></tbody></table>		電源		負荷		制御		部品	電池	ダイナモ	LED	ブザー	スイッチ	可変抵抗器		- 安定して使用できる。 - 消耗すると使えなくなる。 - ゴミになる。	- いつでも発電できる。 - 使うたびに回すのは労力がかかる。	- 夜に活動しやすくなる。 - 使用する時間帯が限定される。	- 音で知らせることができる。 - 音量に気をつける必要がある。	- ON/OFFの操作が容易 - 微調整できない。	- 光量や音量の微調整が可能。 - コストがかかる。	【視点2】個別最適な学び - 見本を示し、製作の見通しがもてるようにする。 - 部品のメリット、デメリットを思考できる表を準備する。 - ロイロノートのヒントカードを活用するように促す。
		電源		負荷		制御																	
部品	電池	ダイナモ	LED	ブザー	スイッチ	可変抵抗器																	
	- 安定して使用できる。 - 消耗すると使えなくなる。 - ゴミになる。	- いつでも発電できる。 - 使うたびに回すのは労力がかかる。	- 夜に活動しやすくなる。 - 使用する時間帯が限定される。	- 音で知らせることができる。 - 音量に気をつける必要がある。	- ON/OFFの操作が容易 - 微調整できない。	- 光量や音量の微調整が可能。 - コストがかかる。																	
広げる	3 全体交流(10分) 「電池」「LED」「可変抵抗器」 → 災害時の夜に使うことを想定した。使う時間は限られているので、電池でよいと思ったし、明るさは変えられる方が便利だと考えた。 「ダイナモ」「LED」「可変抵抗器」 → ダイナモは発電の手間がかかるけど、いつでも使えるから電気がなくなる心配がない。可変抵抗器はON/OFFの操作もできるから、微調整もどちらもできる可変抵抗器の方がよいと考えた。 「電池」「ブザー」「スイッチ」 → 音を使う場面は限られているし、そんなに多くはないから電池でよいと思った。周りに知らせる音なら音量の変更も必要ないと考えた。	【視点3】協働的な学び - ロイロノートのシンキングツールを使って、思考を可視化する。 - 全体交流で仲間の意見を聞き、自分の考えを再構築する場を設ける。 - 思考を深める手立てとして「社会からの要求」「環境」「経済」「安全」の4つの視点を示す。																					
深める	4 全体交流 → 個人(10分) 「Xチャート」に意見をまとめる-技術の見方・考え方をはたらかせる  全体交流から個人で考えを再構築する	【視点4】「できた」「わかった」を実感する振り返り - 思考の変容がわかるようなワークシートを活用し、記述させる場を設ける。 - 振り返りカードに「学びの振り返り」と「学びの姿の振り返り」を記述する場を設ける。																					
たしかめる	5 学習の振り返り(5分) 災害時に役立つ回路にするために、ダイナモ、LED、スイッチを選んだ。始めは電池の方が使いやすいと思っていたけど、災害時にいつでも使えるということを考えると電源はダイナモがよいと思った。災害時は光らせるだけで光量は明るいままでよいと考えたから、制御部分はスイッチの方が簡単だと思って選んだ。使用条件や目的をはっきりさせることは大事だと思った。これから作るラジオは、今日考えた全ての要素が含まれているからすごい。	<評価規準> 4つの視点から災害時に役立つ電気回路を表現している。【思考・判断・表現】																					



「成功ありきの行動や努力」

泉中学校 教頭 加藤 望

皆さんは、こんな状況であつたら、どうされますか？・・・人前で話すことがとても苦手な生徒がいます。今回、全校を前に学級の代表者として発表することになりました。大勢の生徒を前に固まってしまうかもしれません。そうなったら大きな失敗体験です。その後のフォローもできるかどうか。保護者にどう伝えよう。でも、ちゃんと発表できるかも・・・。

先日、全校生徒が集まる「ひびきあい集会」が開かれました。各学級の代表生徒が人権的な取組を順に発表するわけです。一番手は特別支援学級3クラスの代表となった6名でした。発表直前まで、不安を口にしたたり体を揺らしたりして落ち着かない様子でした。担任の先生に、大丈夫だよと声をかけられ、背中を押されるようにステージ前に整列をしました。

結果は、6人全員が大きな声で堂々と発表することができました。大切な仲間一人一人のよさや感謝が散りばめられた内容が伝わり、あたたかな雰囲気が体育館に広がりました。

昨年の今頃は、発表を拒んで机にふさぎ込む生徒もいました。無理かもしれない・・・と心配だったのは私だけで、担任の先生方は、目標をもたせて練習を繰り返し、誉めて認めて自信をもたせて、当日を迎えられたと思います。

「成功ありきの行動や努力」にばかり目が行きがちです。苦手なことに挑戦させてくれる先生方がいてくださることをうれしく思いましたし、生徒の成長を心から喜んでみえる先生方の表情が誇らしく感じました。



【土岐市美術展幼少年の部 優秀賞受賞者の皆さんです（敬称略）】

＜平面作品の部＞

水野 沙奈（下石小1年）	苅谷 美緒莉（肥田小1年）	伊藤 梨子（泉西小1年）
細川 才奈（土岐津小2年）	石井 姫（泉西小2年）	各務 莉愛菜（下石小3年）
長友 紗那（肥田小3年）	後藤 綸（泉小3年）	鈴木 小花（妻木小4年）
毛利 紅梨（駄知小4年）	TAO ZANE NIGEL YAMA（土岐津小5年）	
安藤 万莉果（泉小5年）	小栗 麻陽（土岐津小6年）	長谷川 愛莉（泉小6年）
太田 瑠那（泉小6年）	石原 奈々子（西陵中1年）	小栗 光叶（泉中1年）
伊藤 ひより（肥田中2年）	小栗 なな弥（西陵中3年）	野々村 美星（駄知中3年）

＜立体作品の部＞

藤澤 十矢（下石小1年）	宮城 蓮兜（泉小1年）	深萱 陽汰（濃南小2年）
イチロ シャン リベラ（駄知小2年）		
エスペラ ベンジャミン ジェームス ケンゾー（泉西小2年）		
加茂田 涼（下石小3年）	中武 凌久（土岐津小3年）	西尾 源真（肥田小3年）
林 立都輝（濃南小4年）	水野 陽太（下石小4年）	塩屋 旺介（泉小5年）
盛田 蒼真（下石小5年）	遠山 煌大（土岐津小5年）	戎居 実輝（濃南小5年）
ケイ リベラ（駄知小6年）	今井 亮太（肥田中1年）	溝口 優心（泉中1年）
山下 由愛（土岐津中3年）	佐橋 あかね（土岐津中3年）	星山 沙羅（土岐津中3年）

＜書写の部＞

孝井 瑞季（土岐津小1年）	長谷川 実（肥田小1年）	村上 李樹（下石小2年）
石橋 海実（駄知小2年）	大塚 美緒（泉小2年）	安藤 瑛大（下石小3年）
深津 結万（泉西小3年）	小嶋 彩友美（土岐津小4年）	大澤 遥乃（妻木小4年）
水野 涼穂（駄知小4年）	井戸 菜津歩（駄知小4年）	林 優菜（肥田小5年）
加藤 綾萌（土岐津小6年）	坂本 幸稀（妻木小6年）	政山 采璃（泉小6年）
村田 咲空（土岐津中1年）	伊藤 桜菜（濃南中1年）	大友 梨菜（泉中1年）
伊藤 美紅（駄知中2年）	水野 咲（泉中2年）	